

9.その他、図書館等基本計画に対してご意見がございましたら、ご自由にお書きください。(自由回答)

【図書館機能について】

- ・別府の図書館にしかないものを取り組んでほしい。
- ・別府市の学校図書館の変遷を35年見てきた。以前は非常にお粗末だったが、今は学校図書館にも司書が配置され、予算が増え本も充実してきた。それでも利用者は頭打ち状態、いわゆる活字離れが広がっている。また調べることをネットに頼ることが多いのは子どもだけではない。中学で国語を教えているので、竹をテーマにした単元や別府をテーマにした絵を中心とした単元、そして今は総合学習で別府に関する調べ学習に取り組んでいる。「別府学」の冊子を学ばせるためにもその内容を深める資料が不足していると感じる。出来事と子ども、物と子どもを結びつけるための図書館になってほしい。器や蔵書でなく人なのだと感じた会だった。市内には日本語が母国語ではない生徒も多く、そんな子どもたちも楽しめる図書館になってほしい。
- ・様々な機能を備えるような議論に聞こえる。他の行政施設で機能できるものはそこで機能させることも考えていくべき。例えば、医療関係のスキルアップ、ワークショップであれば、湯のまち健康パーク、学生であれば学校のある近い地域の公民館などを機能強化するほうが現実的(利用しやすい、費用面)。観光人材育成とは違うと思う。ここまでの議論で、出た意見を仕分けして、本当に図書館で行うべきものを明らかにしていただきたい。
- ・12万人都市別府にふさわしい内容の基本以上の図書館を望んでいます。オープン・プラットフォーム会議のゲストの方々の貴重な意見を新図書館整備基本計画にいかしてほしいと思います。
- ・一つは蔵書数だと思います。絶版の図書も必要ですし、専門書も必要だと思います。それは市民から提供(寄附)を受けてよいのではないのでしょうか?もしくは専門家(の知識=蔵書)とのネットワークを構築すると、より広がりとしの継承ができると思います。
- ・老若男女、障害のある人もない人も、国籍も関係なく、学校に行ける子、行けない子、本が好き嫌いにかかわらず、誰もが立ち寄ってもいいと安心して思える空間にしてほしい。今ならネットで本も読めるし、調べ物もできる。ほかにはない場の提供を期待する。
- ・人の知識、偶然の出会いによる気づきの場として機能する空間設計。
- ・このような会は定期的に続けていくことが大切ではないかと思います。新図書館が完成した後もずっと市民の声を聞き、取り入れられるものは受け入れて、さらにレベルアップし続けていくことが望まれます。
- ・儲かる図書館、お金を払ってでも行きたい図書館(例えば漫画図書館)。
- ・従来の「知識の保存庫」の役割に加えて、個人レベル、グループレベルで所有・備蓄している知識を交差できる場を設定、提供する役割が見込まれると考える。
- ・立ち寄りやすさ、駐車場の確保、たくさんの方の居場所づくり。
- ・多世代の人が利用するためには車を利用できない人たちが来れる公共交通機関との連携が

絶対条件だと考えます。ぜひ施設内にバス・タクシー等が巡回できるスペースをつくり、直接アクセスできるようにしてほしい。図書館に来る人は定額で利用できると思いいます。施設内に地域子育て支援センターがあればよい。

- ・議論の前提として「図書館」の定義が必要。旧来の図書館機能のことなのか、図書館を核とした多機能施設のことなのか？
- ・子どもたちが来やすい図書館であってほしい。本を読みたいが何を読んだらいいかわからない子ども、来館者のために一緒に見回ってくれる人がいてほしい。今の図書館は南の方にあって北の方の人間にはアクセスが悪い。みんなが来やすい場所を考えてほしい。図書館に行くための公共バス路線を作って、年寄り、子どもが行きやすい方法を考えてほしい。
- ・不登校やひきこもりの方の居場所を確保するにあたり、週に1回でもカウンセラーがいていただくと学校との連携や見守る上で助けになることもあるのではないのでしょうか。

【美術館ほかの機能について】

- ・4回の会議でたくさんアイデアが出たと思います。夢を語るのは結構ですが、事業と30億円の中でなができるか、委員会として別府市に提言していただきたいと思います。また「美術館」の名称が消えていることについて、どういう経過があったのか、キチンと説明して、公開していただきたいと考えます。市内の美術愛好家の間でも、なぜなのかモヤモヤした気分で満たされているように感じます。既存の市美術館は仮住まいの状態で、空調一つにしても十分なものではありません。別府市の文化のためにも一考をお願いします。
- ・足を運びたくなるすてきなスペースにしてほしい。別府の温泉を利用した別府ならではの場所をぜひつくってほしい。できれば温泉博物館的なものもつくってほしい。ぜひ温泉を取り入れてください。元の別府市美術館のロケーションがすばらしかったです。あそこの場所にすてきな公共施設を建てて、海の見える景色を有効活用してほしいです。
- ・美術館も整備してほしい。
- ・別府市美術館について、具体的な考え方が出てくるのかなと思い参加しましたが、どうもその部分の話はなくなってしまったようです。今後はこの話は出てこないのでしょうか。最後で良い質問が出ました。今後に期待します。
- ・図書館・美術館として設立するためそれぞれの分担を明確にしてほしい。図書館も美術館も待ちではなく、アプローチの姿勢をもってほしい。図書館に行かなくても図書が借りられる、市の図書を学校でも病院でも借りたり返せたりできるシステムをつくってほしい。図書館と駐車場は距離をつくらないでほしい（重たい本をもって歩けない）。別府公園駐車場に図書館はつくれなかったのか。美術館学芸員として活動すべきことも多々あると思う。美術館としてできないなら、図書館として位置づけて施設をどう開放するかだけにした方がよい。音楽スタジオや制作アトリエは不可である。
- ・これまでの空間でよいのですが、より良い美術館も含めたものを期待します。

【プロセスについて】

- ・要望とか形を固めようとするのがダメだと思う。みんなの形にはまらないものであり、個人や一定の集団の偏った考えや要望で固定化されてほしくない、絶対蔵書数にこだわらない。本で埋まらない。
- ・杵築市には立派な図書館があるが、いつ行っても利用者が数人。別府は大丈夫だろうか。
- ・今まで図書館を利用しなかったのは、遠くて車で行かなければならないからだ。できれば市の中心よりも上の方につくってほしい。交通の便がよいところを望む。
- ・新図書館は美術館と切り離してほしい。市民が育てる図書館を望む。企業（例えばツタヤ書店）に頼らない図書館運営を望みます。
- ・瀬戸内図書館建設前に行われた市民が参画できるワークショップ（市民が自分ごととしてとらえる、意識を転換できる会）をもっと持ってください。なんだか自分には参画できていない感を感じています（いつも聞くばかり）。ディスカッションにもあった学校図書館との連携をしっかりと計画に位置づけてほしい。
- ・構想段階から基本計画策定、そして建設、開館、運営へとそのプロセスについて大変興味深くウォッチさせていただいています。自らの大学院での研究テーマ「公民協働 PFI を核として」に参考となる貴重な情報をこの会議からたくさん得ることができます。今後の取組についても大いに期待しています。
- ・前回、今回と講演を聞き、「別府市」にもそのような図書館ができたらどれほどうれしいことか。ハード面と行政を中心にしっかりつくっていただきたい。ソフト面は市民のパワーを集めて、連携を強めつつ。
- ・具体化に向けての課題、ハードルなどの経験トークを聞きたい。
- ・今回の会議で別府の新しい図書館について具体的な話が聞けた気がします。いろんな立場での要望をクリアするのは難しいですが、まず意見に耳を傾けてよりふさわしいものになるための議論を委員会ですてほしいです。
- ・初めて参加しました。実際にどの建物をどうするか？がわかっていなくて、今ある建物をリフォームするか、新しく全面建て替えるのかがずっとわからないままで、すみませんでした。今後はちゃんと調べてからきます。最後のディスカッションでやっと全面建て替えだとわかりました。
- ・この話し合いが生かせるプランをつくり、実施に向けていってほしいと思う。
- ・小・中学校へ会議開催の案内を出し、児童・学生の参加を促す。子どもたちの考え、意見を聞きたい。市美術館で行っている本の著者によるブックトークはとても楽しく本好きの子どもが育てられる気がします。
- ・図書館の機能は強化しつつ、かたちにとらわれないダイバーシティ的な図書館であってほしいと願う。
- ・指定管理が入るかどうかもまだ決まってないと思いながらも、運営段階には民間を入れたいというお話があったので、もう決まってしまう印象を受けた。市民と交流のある武雄市図書館を見学したが、つどいの中ではあったが、学ぶには構造、蔵書群ともに難しかった。伊万里図書館のようにつどいと学びが両立した図書館になるような会議になってほしい。

- ・講演もパネラーの方の話もよいのですが、グループディスカッションなど一般市民の単位で他の方の話を聞いてみたいです。例えば個人で他地域の図書館巡りをされている方の話など、市民感覚での感想を聞きたいと思いました。
- ・どんな物事にも当事者意識は必要だと思う。一方で、そのような意識がもてる場、または行動にうつせる場は少ない。嶋田氏の図書館運営によって地域に「自分ごと」という意識が生まれたことがすごいと思った。図書館に行く際は「本を借りたい、見に行く」だけの意識だった。自分の自治体の図書館の取組などに目を向けてみたいと思った。
- ・受付に企画案を提出しています。参考にしてもらえれば。

【人材について】

- ・今日の嶋田さんの話をお聞きして、図書館スタッフに学芸員を配置してほしい。
- ・箱物はプロに任せるとして、中身を決める（運営）は人。館長・スタッフ（司書）にいかなる人を開設準備期間から採用するのが大事と思う。
- ・別府市の企画に図書館の専門家がないのは大変不安だ。完成してしまってからではとりかえしがつかないのではないだろうか。
- ・本日の嶋田さんのような方が別府市におられて、図書館整備を推進してくださるといいですね。市民の声を多く聞いて、新図書館をつくってもらいたいです。できてしまってからでは遅いですから。4回目とのことです。これらの積み重ねが十分生かされた図書館ができることを期待しています。
- ・新図書館に対して能力ある館長、司書に関わっていただくこと。オープン・プラットフォームの人選、若い世代はダメなのですか？いないのですか？（これから世代が図書館を利用、利用しやすい館をつくるため）
- ・プロの司書を配置することが大切。資質の向上を。
- ・やはり館長が先だと思った。本来の図書館の目的に沿ったリーダーが市民の声を聞く方法や熱意を持っている人は学芸員や司書が大切。
- ・新図書館の職員体制（館長・司書）を早急に。現図書館の資料購入費を大幅にアップし図書資料準備を進めてほしい。嶋田先生は図書と住民をいかにむすびつけるかという話をしているのに一部のパネラーはピントがずれていた。